

廣報

東京大学理学部



目次

表紙の説明	1
柏地区新キャンパス候補地について	山崎 敏光… 2
第1回国際生物学賞シンポジウムについて	岩槻 邦男… 3
外人が東大へ来てから	ロバート・J・ゲラー… 5
古巣に戻って4カ月	堀内 弘之… 9
深海底の潜水調査	
日仏共同“海溝”調査を了えて	飯山 敏道… 10
ソウル訪問1カ月の感想	海野和三郎… 16
《学部消息》	19

表紙の説明

飯山敏道(地質学教室)

日仏共同“海溝”調査中、6月6日の南海トラフと天竜海底谷の出会い付近でみられた生物コロニー。

今回の海溝計画3航海の何れでも、この種の生物コロニーは、断層を覆っている泥質堆積物上に存在し、水深3,000～6,000 m位の所でみられた。コロニーの附近の泥は黒く、硫異分が多い。

深海では一般的に生物が少なく、このコロニーの生態と地質構造との関係が示す意義は興味深い。日本海溝では、このコロニーは水深の大きい所程多く、浅い所で少なくなっていることが判った。海中、上から降って来る栄養物で生息しているものとは考えられず、地中から湧出する水に含まれる物質を栄養源とする微生物がここに生息していて、これを餌として、大型生物が生息しているものと思われる。

この“海溝”計画で得られた数多い収穫の一つである。写真を横切る黒いかげは、マニピュレーター陰である。左下の数字は、時刻(時,分,秒),海底面からの距離(cmで3桁表示),艇首方位(360°表示),最終行は水深(m,4桁表示)を示す。(本文P.10参照)